

「IDRC2016」に参加し、世界防災フォーラムの定期開催を正式に発表しました (2016/8/28 - 8/31)

テーマ：国際連携／発信、世界防災フォーラム
 場所：スイス・ダボス市

2016年8月28日から31日にかけて、スイス・ダボス市にて国際災害リスク会議 (International Disaster and Risk Conference: IDRC2016) が開催され、世界の約80カ国から500名が参加しました。同会議には当研究所から小野裕一教授と伊藤拓也共同研究員(情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス)が出席し、また当研究所主催で2つのセッションを行ったほか、2017年11月25～27日に第一回の開催が予定されている「世界防災フォーラム／防災ダボス会議」の定期開催について正式に発表しました。

「東日本大震災から5年」と題したセッションでは、東日本大震災での日本／東北の経験や教訓を産官学メディアの立場から発信しました。参加者からは、リスク管理における行政のあり方、日本の教訓を途上国に適用する際の工夫、日本の防災対策の実態など多くの質問があり、日本の蓄積した防災に関わるノウハウや知見に対する関心の高さを伺うことができました。

また、「防災におけるメディアの役割と学術メディア連携のあり方」と題したセッションでは、SNSと既存メディアの役割について、また日常的な情報発信／防災教育の重要性について現地のメディア関係者も含めた議論を実施しました。セッションのほか、「ノイエ・チュルチャー・ツァイトゥング」というチューリヒにある1780年創刊の伝統ある新聞社を河北新報社とともに訪問し、意見交換も実施しました。

当研究所が主催したセッションでの発表者は以下のとおりです。

- ・小野裕一 教授 (東北大学災害科学国際研究所)
- ・西川智 氏 (日本地域開発センター 総括研究理事)
- ・伊藤敬幹 氏 (仙台市 副市長)
- ・武田真一 氏 (株河北新報社 防災・教育室 室長)
- ・蓮江忠男 氏 (株ウェルシィ 東北支社長)
- ・伊藤拓也 共同研究員 (東北大学災害科学国際研究所／パソフィコンサルツ社) 国際事業本部



世界防災フォーラム開催発表の様子
 右から、仙台市伊藤副市長、GRF*Walter Ammann 代表、小野教授



「東日本大震災から5年」セッションの様子
 右から、小野教授、伊藤副市長、武田氏、伊藤研究員、蓮江氏、西川氏

※GRF(Global Risk Forum)はスイス・ダボスの団体で、IDRC を主催(2006年より隔年で開催)。東北大学災害科学国際研究所と2015年10月に協定を締結し、World Bosai Forum に協力予定。

文責：小野裕一、伊藤拓也 (情報管理・社会連携部門)